

### 3. ブレーキ (フロント) (TAK30-003185 から)

**注意**

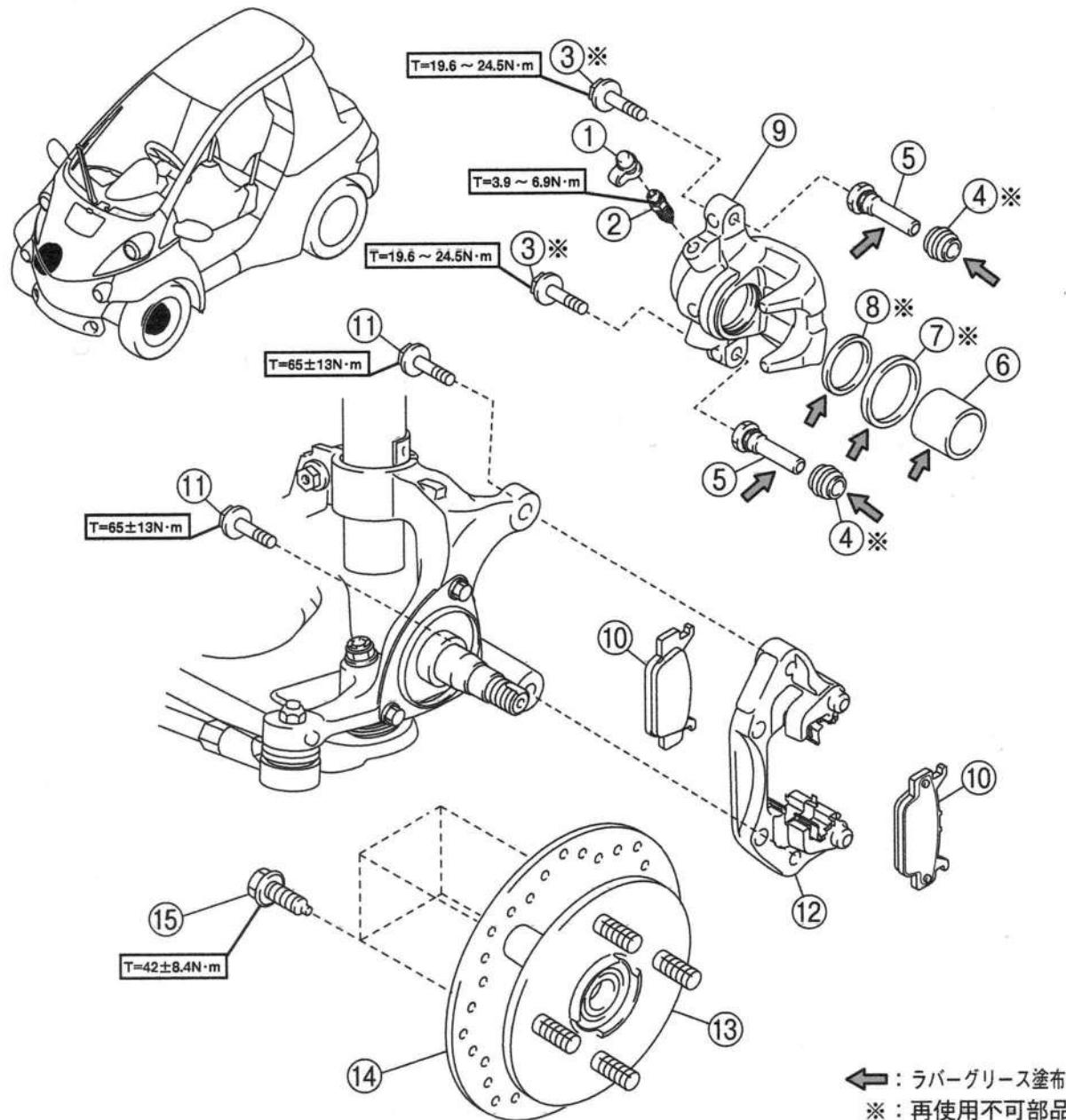
- ・ ジャッキアップポイントを守らないと、車両が傾き危険であるため、必ず守ること。
- ・ ブレーキが正しく装着されてないと、走行中のブレーキ不良の原因となる。
- ・ ブレーキパッド、ブレーキディスク表面に油脂・ウエス等の繊維が付着するとブレーキ力不足の原因となる。
- ・ ブレーキパッド交換時は、片効き防止するため左右両側をセット交換すること。

**○準備品**

トルクレンチ、ラバーグリース、エアガン、マイナス薄刃ドライバー

**○部品構成図**

図は LH 側です。  
RH 側は対称です。



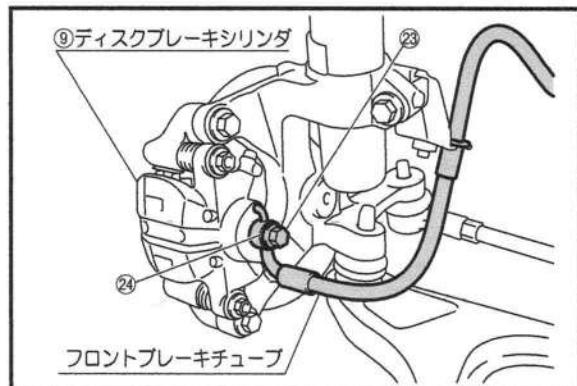
## ○構成部品表

①	CAP, BLEEDER PLUG	⑨※	ディスクブレーキシリンダ
②	ブリーダープラグ	⑩	PAD SUB-ASSY, DISC BRAKE
③※	BOLT, FLANGE	⑪	BOLT, FLANGE
④※	DUST COVER	⑫	ディスクブレーキシリンダマウンティング
⑤	ディスクブレーキシリンダスライドピン	⑬	HUB SUB-ASSY, FR AXLE
⑥	ピストン	⑭	DISC, FR
⑦※	DUST SEAL B	⑮	NUT, FLANGE
⑧※	PISTON SEAL B		

※：再使用不可部品

## ○取り外し前作業

- 1) 車両をジャッキアップし、フロントホイールを外す。(シャーシP.4-8, P.4-11 参照)
- 2) ブレーキチューブの「⑯ BOLT, UNION」および「⑰ GASKET, FLEXIBLE HOSE」(シャーシP.4-43 参照)を「⑨ディスクブレーキシリンダ」から切り離す。



### 注意

接続する際は、下記トルク値で締め付けのこと

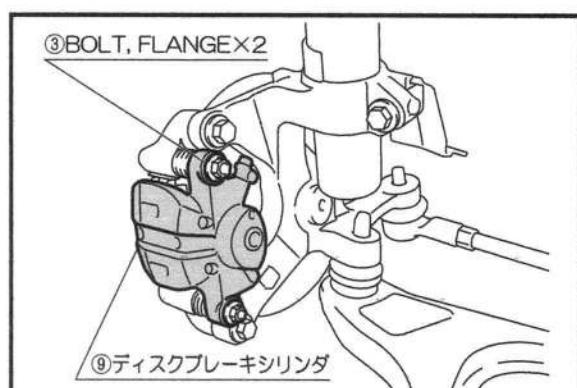
$T=33.3 \pm 6.7 \text{ N}\cdot\text{m}$

## ○取り外し手順

部品構成図の取り外し番号順に従い、取り外す。

## ○取り外し時の要点

### ブレーキ（フロント）の取り外し

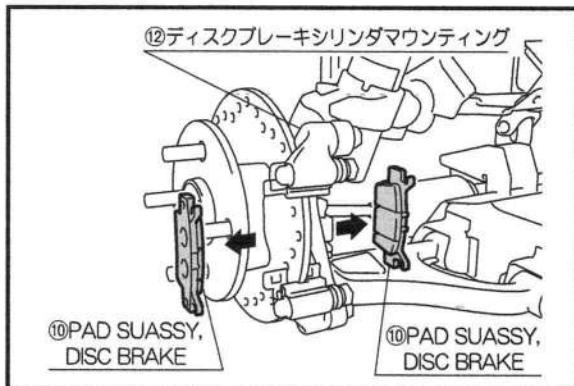


- 1) 「⑩ BOLT, FLANGE」2本をはずして、「⑨ディスクブレーキシリンダ」を取りはずす。

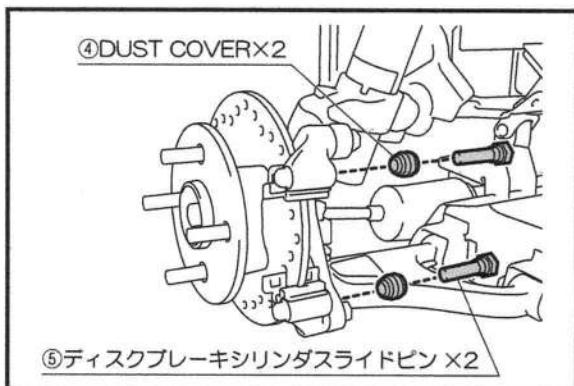
### 注意

取り付ける際は、下記トルク値で締め付けのこと

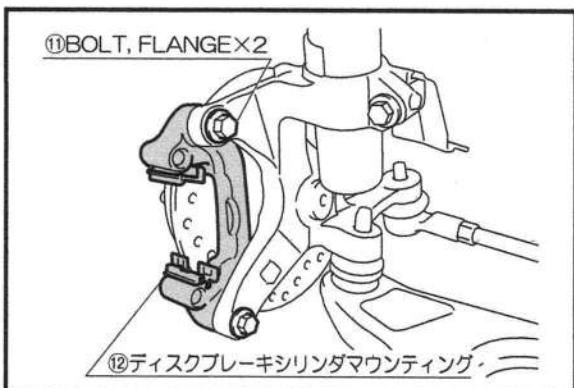
$T=19.6 \sim 24.5 \text{ N}\cdot\text{m}$



- 2) 「⑩ PAD SUB-ASSY, DISC BRAKE」  
2個を「⑫ディスクブレーキシリンダ  
マウンティング」から取りはずす。



- 3) 「⑤ディスクブレーキシリンダスライドピ  
ン」2個及び「④DUST COVER」2個を、  
「⑫フロントディスクブレーキシリンダマ  
ウンティング」から取りはずす。



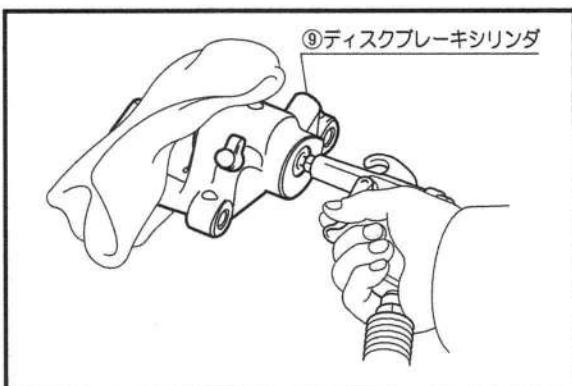
- 4) 「⑪ BOLT, FLANGE」2本をはずし、「⑫  
フロントディスクブレーキシリンダマウン  
ティング」を取りはずす。

**注意**

取り付ける際は、下記トルク値で締め付  
けのこと

$$T=65 \pm 13\text{N}\cdot\text{m}$$

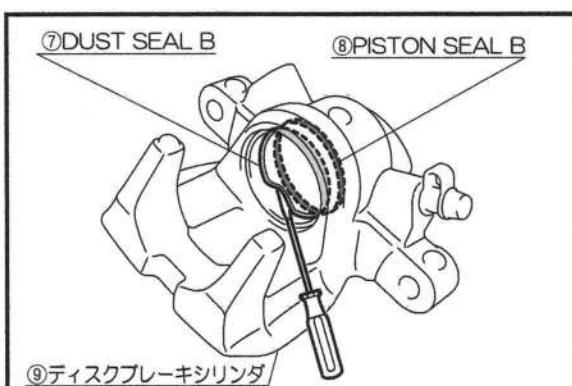
## ブレーキ（フロント）の分解



- 「⑦ピストン」と「⑨ディスクブレーキシリンダ」の間に、傷つき防止の布をはさむ。
- エアガンを使用して、エアを徐々に吹き込み、「⑦ピストン」を「⑨ディスクブレーキシリンダ」から取りはずす。

### 注意

- ・指などをはさまない。
- ・フルードを飛散させない。

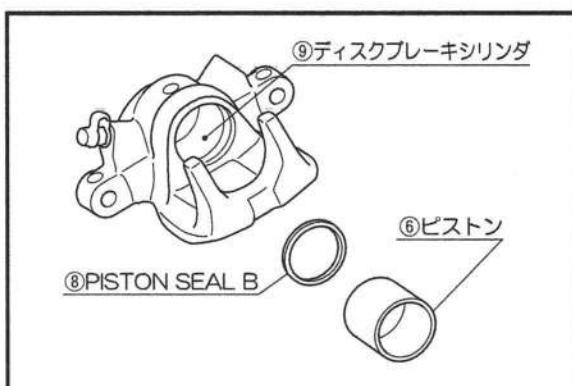


- 保護テープを巻いたマイナス薄刃ドライバーを使用して、「⑦ DUST SEAL B」および「⑧ PISTON SEAL B」を「⑨ディスクブレーキシリンダ」から取りはずす。

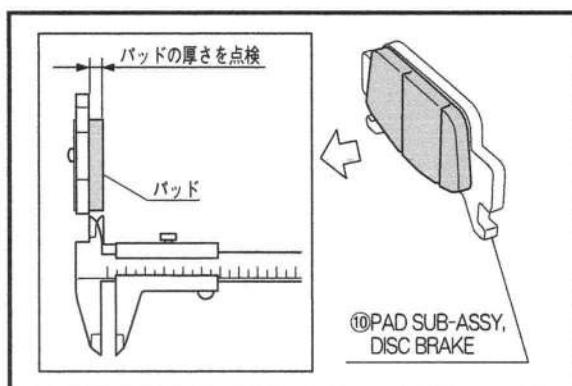
### 注意

「⑨ディスクブレーキシリンダ」内部および「⑦ DUST SEAL B」、「⑧ PISTON SEAL B」の取り付け溝を傷つけない。

## ○点検方法



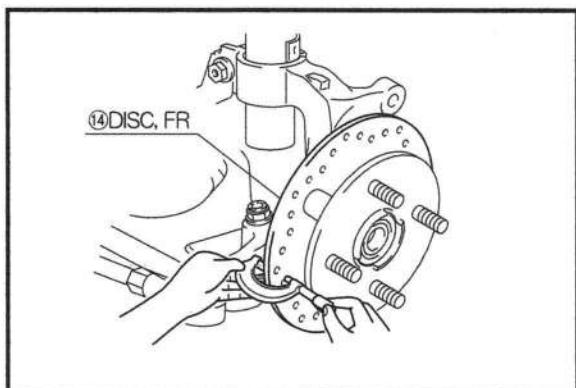
- 「⑥ピストン」側面および「⑨ディスクブレーキシリンダ」内面、「⑧PISTON SEAL B」に損傷がないことを点検する。損傷が見られる場合は交換する。



- 「⑩ PAD SUB-ASSY, DISC BRAKE」のパッド厚さを点検する。厚さが限度以下または、著しい偏磨耗がある場合は交換する。

**基準値** 4.5mm

**限度値** 0.5mm



- 3) 「(14) DISC, FR」の厚さを点検する。  
 「(14) DISC, FR」に著しい偏磨耗が見られる場合は交換する。
- |     |       |
|-----|-------|
| 基準値 | 5.5mm |
| 限度値 | 4.5mm |

### ○取り付け手順

取り外しとは逆の手順で取り付ける。

### ○取り付け時の要点

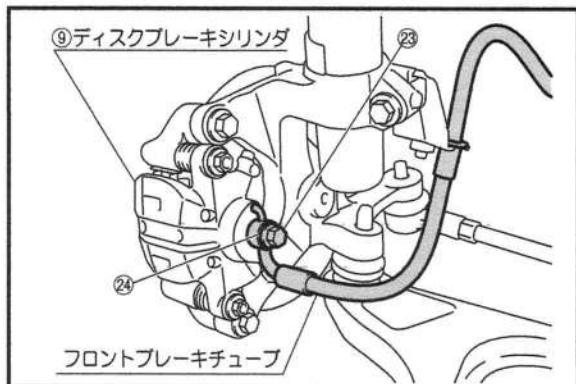
- 1) 各部品を取り付け時、指定部品に指定のグリースを塗布する。
- 2) 各部品を取り付ける際、指定トルク値で締め付ける。
- 3) ブレーキ関係部品に変形や傷がない事を確認する。

#### 注意

変形・傷がある場合は、新しいものに交換する。

### ○取り付け後の作業

- 1) ブレーキチューブを「(23) BOLT, UNION」および「(24) GASKET, FLEXIBLE HOSE」(シャーシP.4-43 参照)で「(9)ディスクブレーキシリンダ」に接続する。



#### 注意

接続する際は、下記トルク値で締め付けのこと

$$T=33.3 \pm 6.7\text{N}\cdot\text{m}$$

- 2) ブレーキのエア抜きをする。(シャーシP.4-45 参照)
- 3) フロントホイールを取り付ける。
- 4) ブレーキの引き摺りがないか確認する。
- 5) 車両をジャッキダウンする。

## 4. ブレーキ(リヤ)(TAK30-000001 から TAK30-007203 まで)

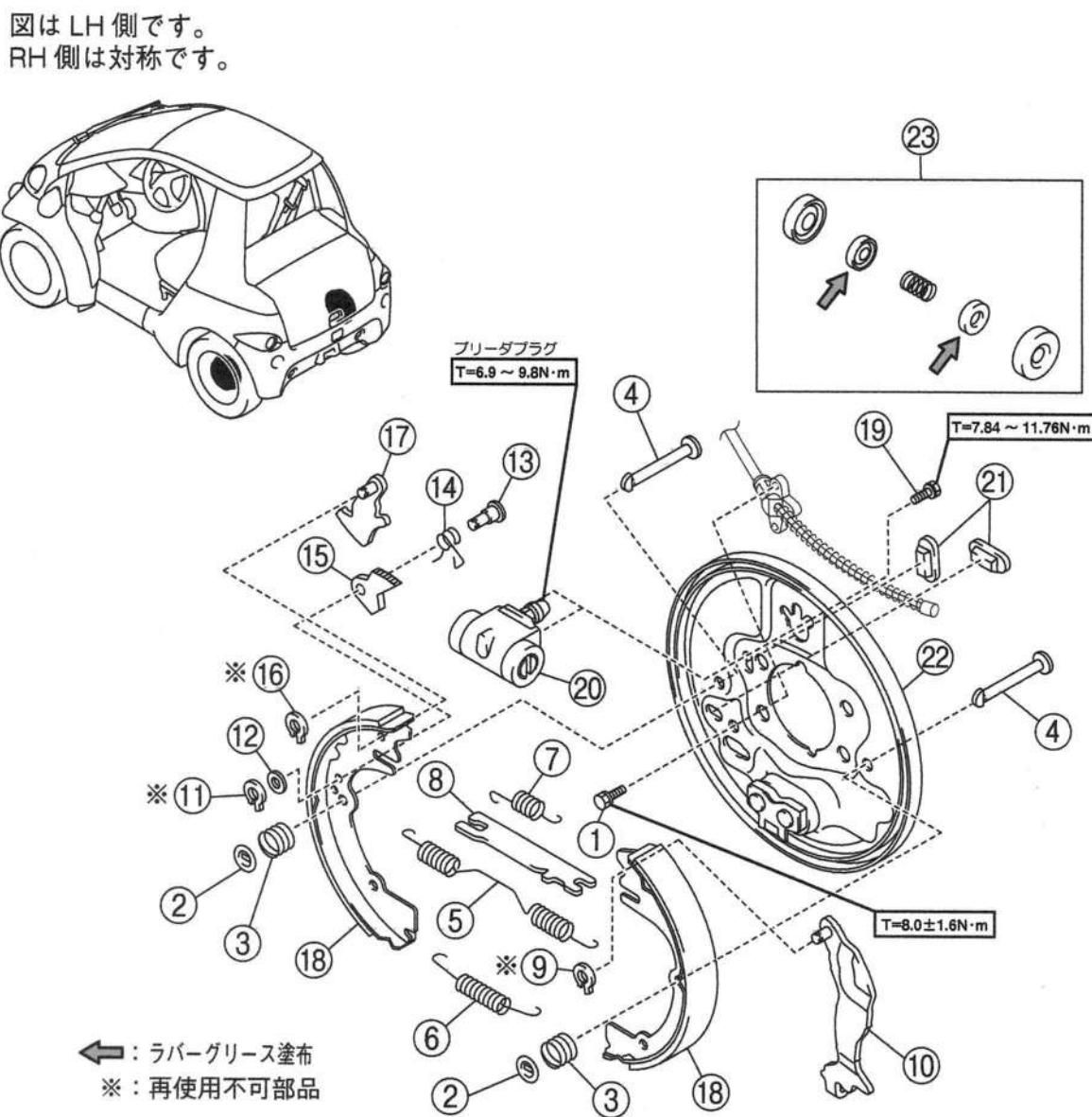
### 注意

- ・ ジャッキアップポイントを守らないと、車両が傾き危険であるため、必ず守ること。
- ・ ブレーキが正しく装着されてないと、走行中のブレーキ不良の原因となる。
- ・ ブレーキドラム、ブレーキライニング表面に油脂・ウエス等の繊維が付着するとブレーキ力不足の原因となる。
- ・ ブレーキシュー交換時は、片効き防止するため左右（車両）両側をセット交換すること。
- ・ ブレーキシリンダ(ピストンカップキット)は定期交換部品です。漏れている時は即時交換、更に2年経過毎に交換すること。
- ・ ドラムブレーキレッジ面とシューニブ面の接触部にグリス塗布のこと。

### ○準備品

トルクレンチ、チョーク、ラバーグリース

### ○部品構成図



## ○構成部品表

①	BOLT, W/WASHER	⑬	PIN, AUTOMATIC ADJUST LEVER
②	CUP, SHOE HOLD DOWN SPRING	⑭	SPRING, TORSION
③	SPRING, COMPRESSION	⑮	STOPPER, AUTOMATIC ADJUST LATCH
④	PIN, SHOE HOLD DOWN SPRING	⑯※	WASHER, TYPE C
⑤	SPRING, TENSION	⑰	LEVER SUB-ASSY, AUTOMATIC ADJUST
⑥	SPRING, TENSION	⑱	SHOE ASSY, BRAKE
⑦	SPRING, TENSION	⑲	BOLT, W/WASHER
⑧	STRUT, PARKING BRAKE SHOE	⑳	CYLINDER ASSY, WHEEL BRAKE, FR
⑨※	WASHER, TYPE C	㉑	PLUG, SHOE ADJUSTING HOLE
⑩	LEVER SUB-ASSY, PARKING BRAKE SHOE	㉒	PLATE SUB-ASSY, BRAKE BACKING, RR
⑪※	WASHER, TYPE C	㉓	PISTON, WHEEL BRAKE CYLINDER
⑫	WASHER, WAVE		

※：再使用不可部品

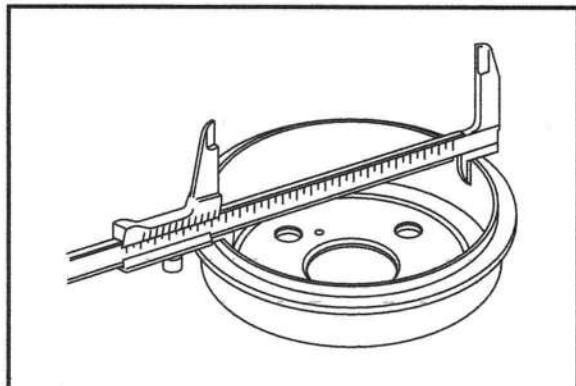
## ○取り外し前作業

- 1)車両をジャッキアップし、ブレーキドラム・ホイールを外す。(シャーシP.4-8 参照)
- 2)ブレーキチューブをホイールシリンダから切り離す。(シャーシP.4-41 参照)
- 3)リヤサスペンションの「⑫HUB SUB-ASSY, RR AXLE」を取り外す。(シャーシP.4-31 参照)

## ○取り外し作業

部品構成図の取り外し番号順に従い、取り外す。

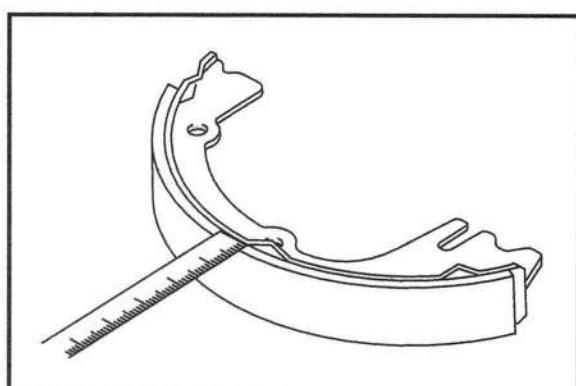
## ○点検方法



- 1) ブレーキドラムの内径を点検する。  
ブレーキドラムに著しい偏磨耗が見られる場合はドラムを研磨するか交換する。

基準値 165.0mm

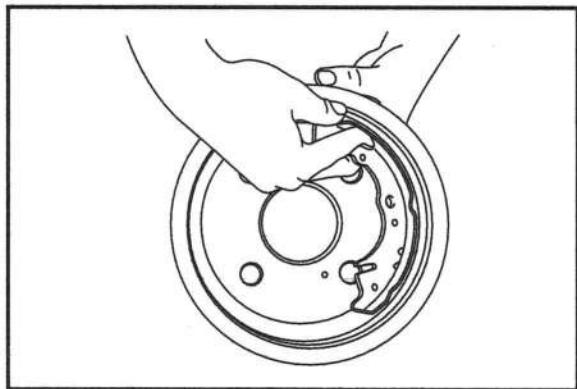
限度値 166.5mm



- 2) シューライニングの厚さを点検する。  
厚さが限度以下または、著しい偏磨耗がある場合は交換する。

基準値 4.0mm

限度値 1.0mm



3) シューライニングとドラムの当たりを点検する。

ブレーキドラム内面にチョークを塗布し、ブレーキシューとこすり合わせ、当たり不良の場合、ライニングを研磨する。

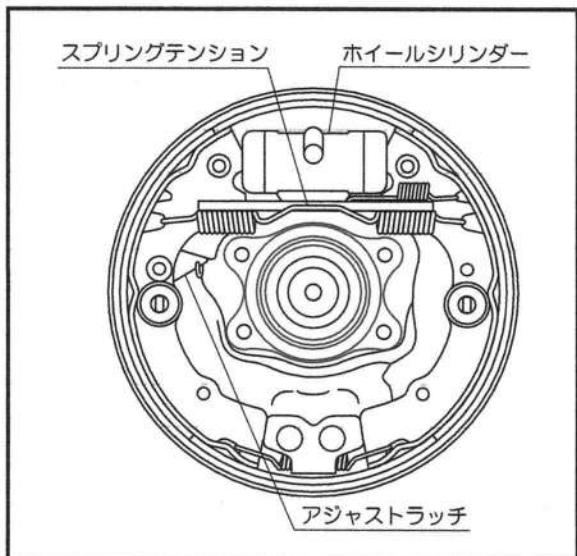
**基準** 著しい当たり不良がないこと

**注意** 点検終了後チョークを拭き取る

## ○取り付け手順

取り外しとは逆の手順で取り付ける。

## ○取り付け時の要点



1) シューライニング取付時、スプリングに過度の力がかからないようにする。

2) ケーブル、ブーツ及びブレーキ関係部品に変形や傷がない事を確認する。

**注意**

変形・傷がある場合は、新しいものに交換する。

3) スプリングテンションを組み付ける時、上下方向を間違えないようにする。(凸がホイールシリンダー側)

4) ブレーキドラムはアジャストラッチを解除してから組み付ける。

## ○取り付け後の作業

- 1) リヤサスペンションの「⑫ HUB SUB-ASSY, RR AXLE」を取り付ける
- 2) ホイールシリンダにブレーキチューブを接続する。
- 3) ブレーキのエア抜きをする。(シャーシ P.4-45 参照)
- 4) ブレーキペダルを数回踏んでアジャスター機構を作動させ、シュー隙間を適正な状態に調整する。
- 5) パーキングブレーキのワイヤーを調整する。(シャーシ P.4-47 参照)
- 6) ブレーキドラム・ホイールを取り付ける。
- 7) ブレーキの引き摺りがないか確認する。
- 8) 車両をジャッキダウンする。

## 4. ブレーキ (リヤ) (TAK30-007204 から)

### 注意

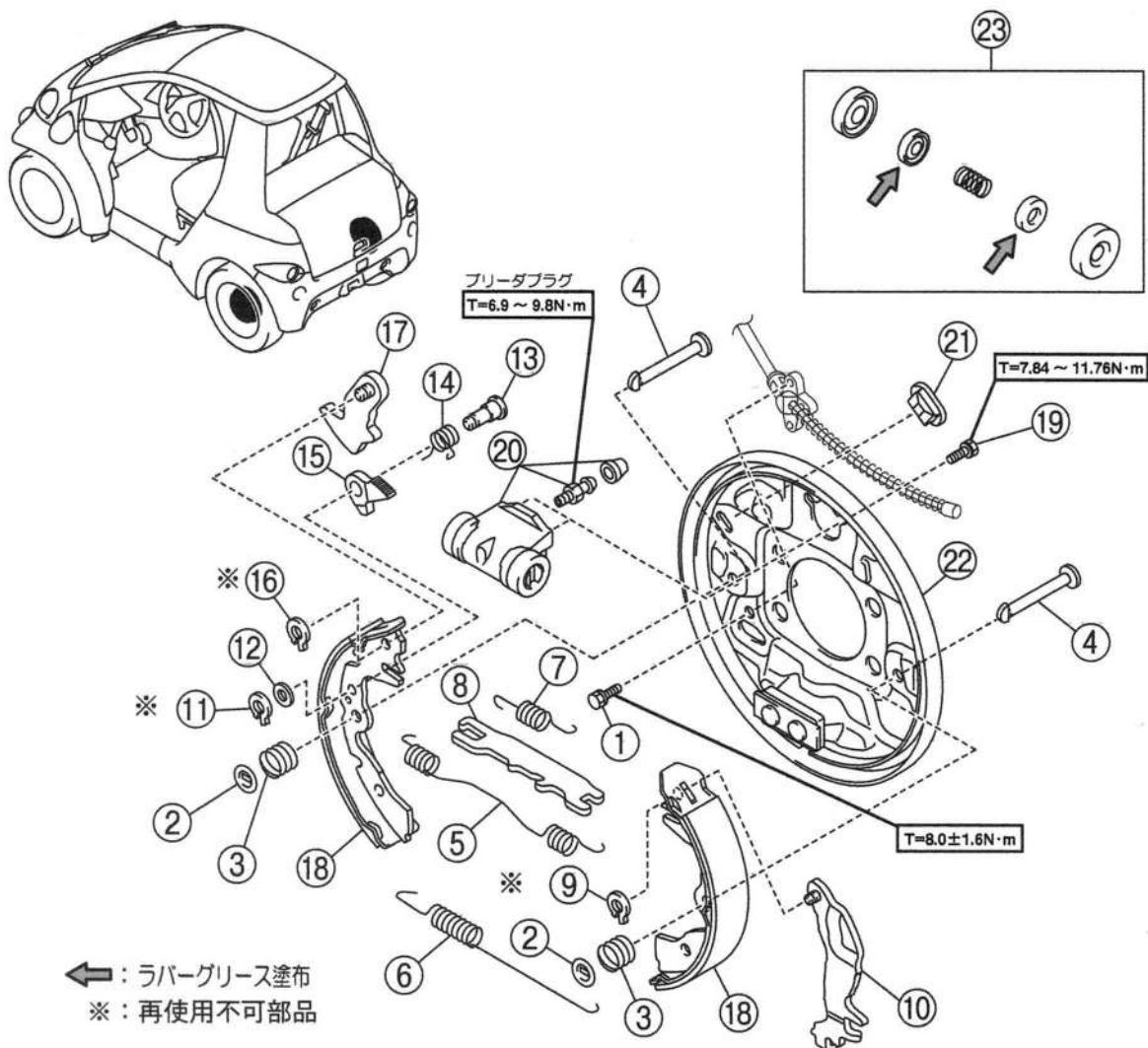
- ・ ジャッキアップポイントを守らないと、車両が傾き危険であるため、必ず守ること。
- ・ ブレーキが正しく装着されてないと、走行中のブレーキ不良の原因となる。
- ・ ブレーキドラム、ブレーキライニング表面に油脂・ウエス等の纖維が付着するとブレーキ力不足の原因となる。
- ・ ブレーキシュー交換時は、片効き防止するため左右（車両）両側をセット交換すること。
- ・ ブレーキシリンダ(ピストンカップキット)は定期交換部品です。漏れている時は即時交換、更に2年経過毎に交換すること。
- ・ ドラムブレーキレッジ面とシューニブ面の接触部にグリス塗布のこと。

### ○準備品

トルクレンチ、チョーク、ラバーグリース

### ○部品構成図

図は LH 側です。  
RH 側は対称です。



## ○構成部品表

①	BOLT, W/WASHER	⑬	PIN, AUTOMATIC ADJUST LEVER
②	CUP, SHOE HOLD DOWN SPRING	⑭	SPRING, TORSION
③	SPRING, COMPRESSION	⑮	STOPPER, AUTOMATIC ADJUST LATCH
④	PIN, SHOE HOLD DOWN SPRING	⑯*	WASHER, TYPE C
⑤	SPRING, TENSION	⑰	LEVER SUB-ASSY, AUTOMATIC ADJUST
⑥	SPRING, TENSION	⑱	SHOE ASSY, BRAKE
⑦	SPRING, TENSION	⑲	BOLT, W/WASHER
⑧	STRUT, PARKING BRAKE SHOE	⑳	CYLINDER ASSY, WHEEL BRAKE, FR
⑨*	WASHER, TYPE C	㉑	PLUG, SHOE ADJUSTING HOLE
⑩	LEVER SUB-ASSY, PARKING BRAKE SHOE	㉒	PLATE SUB-ASSY, BRAKE BACKING, RR
⑪*	WASHER, TYPE C	㉓	RISTON, WHEEL BRAKE CYLINDER
⑫	WASHER, WAVE		

\*：再使用不可部品

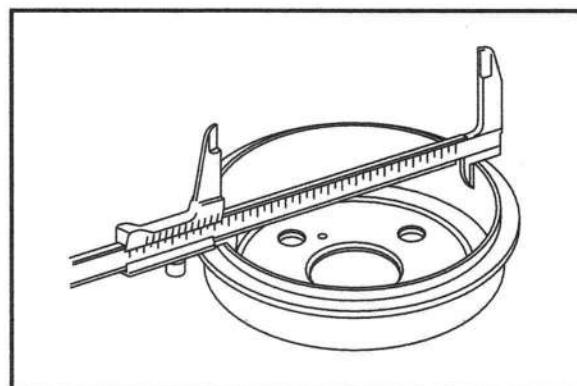
## ○取り外し前作業

- 1) 車両をジャッキアップし、ブレーキドラム・ホイールを外す。(シャーシP.4-11 参照)
- 2) ブレーキチューブをホイールシリンダから切り離す。(シャーシP.4-41 参照)
- 3) リヤサスペンションの「⑫HUB SUB-ASSY, RR AXLE」を取り外す。(シャーシP.4-33 参照)

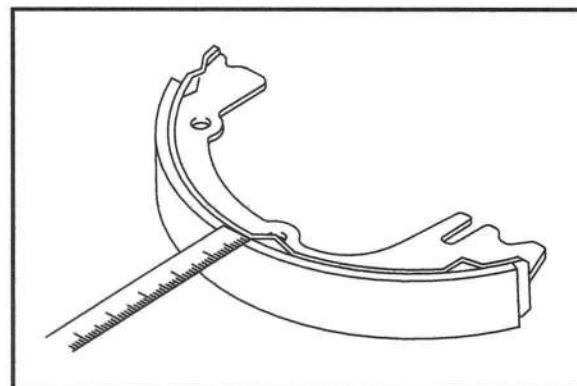
## ○取り外し作業

部品構成図の取り外し番号順に従い、取り外す。

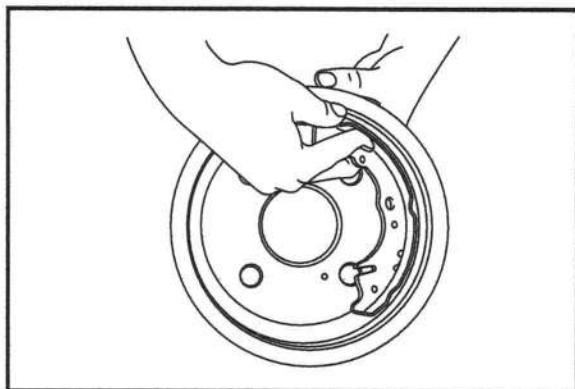
## ○点検方法



- 1) ブレーキドラムの内径を点検する。  
ブレーキドラムに著しい偏磨耗が見られる場合はドラムを研磨するか交換する。
- |     |         |
|-----|---------|
| 基準値 | 165.0mm |
| 限度値 | 166.5mm |



- 2) シューライニングの厚さを点検する。  
厚さが限度以下または、著しい偏磨耗がある場合は交換する。
- |     |       |
|-----|-------|
| 基準値 | 4.0mm |
| 限度値 | 1.0mm |



3) シューライニングとドラムの当たりを点検する。

ブレーキドラム内面にチョークを塗布し、ブレーキシューとこすり合わせ、当たり不良の場合、ライニングを研磨する。

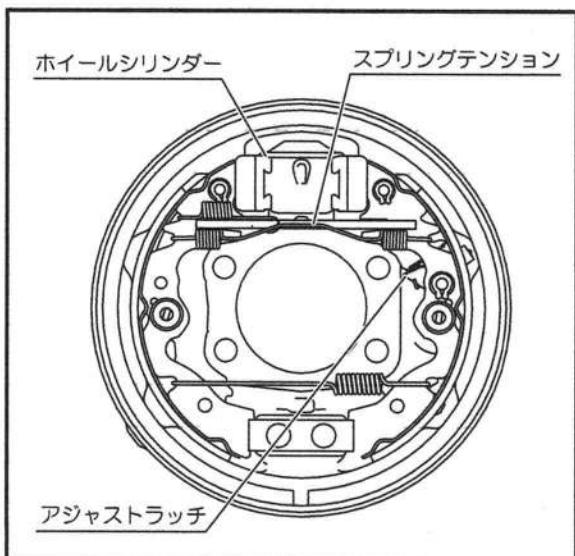
**基準** 著しい当たり不良がないこと

**注意** 点検終了後チョークを拭き取る

## ○取り付け手順

取り外しとは逆の手順で取り付ける。

## ○取り付け時の要点



1) シューライニング取付時、スプリングに過度の力がかからないようにする。

2) ケーブル、ブーツ及びブレーキ関係部品に変形や傷がない事を確認する。

**注意**

変形・傷がある場合は、新しいものに交換する。

3) スプリングテンションを組み付ける時、上下方向を間違えないようにする。(凸がホイールシリンダー側)

4) ブレーキドラムはアジャストラッチを解除してから組み付ける。

## ○取り付け後の作業

- 1) リヤサスペンションの「⑫ HUB SUB-ASSY, RR AXLE」を取り付ける
- 2) ホイールシリンダにブレーキチューブを接続する。
- 3) ブレーキのエア抜きをする。(シャーシ P.4-45 参照)
- 4) ブレーキペダルを数回踏んでアジャスター機構を作動させ、シュー隙間を適正な状態に調整する。
- 5) パーキングブレーキのワイヤーを調整する。(シャーシ P.4-47 参照)
- 6) ブレーキドラム・ホイールを取り付ける。
- 7) ブレーキの引き摺りがないか確認する。
- 8) 車両をジャッキダウンする。

## 10. ブレーキのエア抜き

### 注意

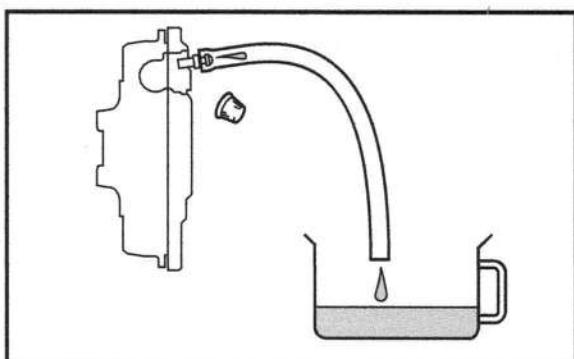
誤ってブレーキフルードを床面や車両に付着した場合は、速やかに水を含ませた布等で拭き取ること。

放置すると腐食・変形・変色の原因になります。

### ○準備品

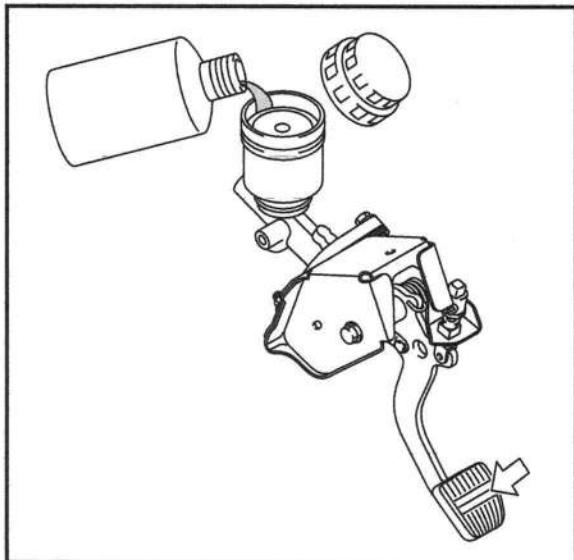
ビニールホース、ブレーキフルード (DOT3)、廃油受け皿

### ○作業手順



- 1) シリンダ部ブリーダープラグのキャップを外し、ビニールホースをつなぎプラグ部のナットを緩める。
- 2) リザーバタンクにブレーキフルード注入しながら、ブレーキペダルを繰り返し踏む。
- 3) ホイールシリンダ部までにエアが抜けたことを確認し、プラグ部のナットを締めキャップをする。

### ○作業終了後の確認



- 1) リザーバタンク部の油量が MAX – MIN 間にあることを確認し、不足なら補充する。
- 2) 踏力 300N·m でブレーキペダルを踏んでフレアナット、シリンダ部より漏れていなこと。